道風記念館 特別展「刻された古代日本の書」を開催 ～日本を代表する金石文を優れた拓本で鑑賞できます～

1 内容

古くから人は、後の世まで永く残したいことを、石に刻したり金属に鋳込んだりして記録してきました。石に刻した文字を石文、金属に鋳込んだ文字を金文といい、あわせて金石文と言います。

本展では、日本の金石文に焦点を当て、仏像の背に刻された造像の由来や故人の墓誌、名刹の門の扁額や灯台に鋳込まれている銘など、刻されて残されてきた、日本を代表する金石文を優れた拓本でご紹介します。

拓本は、実物を見てもなかなか分からない部分までを写し取ります。ぜひゆっくりと鑑賞し、文字の表情を読み取って日本金石の魅力を感じていただきたいと思います。

2 見どころ

例えば、法隆寺釈迦三尊像の光背に刻されている文字や神護寺の鐘に鋳込まれている文字は、普段、実物を目にすることはできないうえに、見ることも文字がくっきりとは見えないことがあります。しかし、拓本であれば、実物ではわかりにくい書きぶりや、刻した人、書いた人の息づかいまで見ることができます。古代の日本人が後の世に伝えるために残した書を、じっくりと味わっていただけます。

3 概要

- (1) 会期 令和7年9月5日（金）～10月19日（日）
- (2) 開館時間 午前9時～午後4時30分
- (3) 休館日 月曜日（祝休日の場合は翌日）
- (4) 観覧料 一般500円、 高校・大学生300円、 中学生以下無料

4 講演会

- (1) 日時 令和7年9月28日（日）午後1時30分～3時
- (2) 演題 「日本金石文拓本から見る書法と真偽」
- (3) 講師 伊藤滋氏（岐阜女子大学特任教授。碑拓本^{ひたくほん}研究者）
- (4) 会場 道風記念館2階 会議室
- (5) 聴講料 無料（ただし観覧料が必要です。）
- (6) 定員 70名（抽選）
- (7) 申込み 9月12日（金）までに、市ホームページからか、電話で